

防災・放射線教育

東日本大震災で福島県が受けた地震・津波被害や、原子力災害の事故を踏まえて、防災・放射線教育に取り組んでいます。

今年度は小学部・中学部・高等部のそれぞれの学習グループで、双葉町にある「東日本大震災・原子力災害伝承館」への校外学習を実施しました。県教育委員会の東日本大震災・原子力災害伝承館学習支援事業の補助により、学部ごとの実態に合わせて学習計画を立て、補助教材やワークシートを使って学びを深められるように事前・事後の学習を行いました。

各学部の学習の様子を紹介します。

～小学部「ほうしゃせんってなあに？」～

小学部では、発電所の役割や、放射線の基本的なことについて事前に学習し、そこで感じた疑問や質問をまとめて施設見学に臨みました。伝承館では職員の方へ積極的に質問をしたり、学校と伝承館のモニタリングポストの数値を比べたりして学習を深めました。



～中学部「地震と安全な暮らし」～

中学部では、福島県の地理的な環境と災害（地震）の関係や、災害の時に活躍した人々についての学習を行いました。伝承館では、原子力発電所の模型や津波で変形した消防車などの展示物を見たことで、より具体的に津波の規模や地震の強さがイメージでき、災害に対する心構えの大切さに気付けたようでした。



～高等部「学習旅行」～

高等部では、防災について意識を高められるように、館内の見学に加えて語り部講話を受講しました。複合災害を経験した方々の体験を聞いたり、当時の写真を見たりしたことで、知識としてあった震災や放射線災害のことを、より身近に感じることができたようです。

